

国内クレジット認証委員会御中

## 審査結果概要書

平成 21 年 12 月 2 日

審査機関名 SGS ジャパン株式会社

### 1. 排出削減事業の概要

排出削減事業名	株式会社田代製作所における木屑焚き蒸気ボイラー導入による省エネ事業
排出削減事業者名	株式会社 田代製作所
排出削減共同実施事業者名	株式会社 みずほ銀行
事業実施場所	株式会社 田代製作所 (秋田県大館市岩瀬字大柳上野 28-1)
事業の概要	灯油を燃料とする暖房器具から、従来産業廃棄物として処分されていた木屑類を燃料とした木屑焚きボイラーに転換することにより、塗装室での製品乾燥時、及び工場の冬季間の暖房時における CO2 排出量の削減を図るとともに、産業廃棄物の有効活用を推進するものである。
排出削減量の計画	111tCO2/年 (事業実施期間合計 535tCO2)
国内クレジット 認証期間	開始日 2008 年 12 月 26 日 終了予定日 2013 年 3 月 31 日
排出削減方法論	方法論番号 004 空調設備の更新

### 2. 審査結果

本事業は、排出削減事業の要件に適合している

### 3. 実施した審査手続の概要

審査手続により、以下の排出削減事業の認証の要件の妥当性を確認している。

要件	審査手続
日本国内で実施されること	事業計画が日本国内で実施されていることを、事業実施場所を訪問して確認した。 排出削減事業実施場所：株式会社 田代製作所 (秋田県大館市岩瀬字大柳上野 28-1)
追加性を有すること	<ol style="list-style-type: none"><li>1) 本事業は、法的義務等の遵守のために計画されたものではなく、CO2 排出量の削減を目的として実施されたことを、関係者への質問等により確認した。</li><li>2) 排出削減事業を実施せず、設備更新を行わない場合、既存設備を継続して利用できることを、関係者への質問、現地視察などで確認している。事実、既存の石油ストーブは、工場内における暖房の補助的機能として、現在も使用されている。</li><li>3) 排出削減事業の投資回収年数は 5.9 年である。投資回収年数計算の根拠データについて、担当者およびその他事業者への質問及び検算、関連証憑との突合により適切性を確認している。</li><li>4) 株式会社田代製作所は、ISO14001 認証を取得しており、地球温暖化防止 (CO2 削減) 等を中心とする自主的な環境パフォーマンス改善に取り組んでいる。今回の木屑焚きボイラー導入は、省エネルギーによる地球温暖化防止と産業廃棄物の有効活用を意図して、自主的に実施されたものであり、国内クレジット制度の活用によって、さらに大きな CSR 効果が得られる見込みであることが事業実施の一因となっている。</li><li>5) 燃料となる木質バイオマスは、工場から発生する木屑のみであることを、事業者への質問、現地視察等により確認した。この木屑は、従来産業廃棄物として処理されていたものであり、本事業によって有効活用されている。</li></ol>
自主行動計画に参加していない者により行われること	排出削減事業者への質問、関係者への質問等により、自主行動計画に参加していない事業者であることを確認している。

<p>排出削減方法論に基づいて実施されること</p>	<p>1) 本排出削減事業は、承認済排出削減方法論 004 に基づき排出削減量を計算しており、また、方法論の適用条件を満たしていることを確認している。</p> <p>なお、事業実施前の石油ストーブ及び実施後のバイオマスボイラーによる暖房は、製材工場内を少し暖めるためのものであり、温度管理や熱量管理を行っておらず、ボイラーの導入であっても方法論 004 が適切と判断される。</p> <p>適用条件 1：工事関係資料、現地視察によって、バイオマスボイラーが導入されたことを確認している。</p> <p>適用条件 2：バイオマスボイラーの導入を行わなかった場合、既存の空調設備が継続して使用できることを関係者への質問、現地視察等によって確認している。</p> <p>適用条件 3：事業実施前及び事業実施後のエネルギー使用量に最も影響を与える空調設備稼働時間を把握できることを、関係者への質問、現地視察等によって確認している。</p> <p>2) その他、バウンダリの設定、リーケージの特定、排出削減量、モニタリング方法が適切であることについて、それぞれ質問と関連証憑により確認している。</p> <p>特にリーケージについては、木屑をボイラーに投入する際に使用するタイヤローダーの燃料使用量、焼却灰の処分の際に必要となる輸送における燃料使用量による CO2 発生が考えられるが、いずれも計算の結果、排出削減量の 5%未満であることを確認した。</p> <p>またボイラーから各工場への配熱については、バウンダリ外のバグフィルタの排気が有効活用されており、リーケージに当たらないことを確認している。</p>
----------------------------	---

上記の詳細については、別紙「排出削減事業の要件についての確認事項一覧」を参照すること。

#### 4. 特記事項

特になし。

以上